

Conference Report

学界情報 研究会レポート

電気学会産業計測制御研究会（産業計測制御全般） 2011年3月8日、9日 千葉工業大学（千葉）

東日本大震災の3日前であるが、千葉県習志野市において産業計測制御研究会が開催された。例年、産業計測制御技術委員会傘下のセンサ関係委員会とモーションコントロール関係委員会が合同開催していたものを産業計測制御技術委員会全体へと広げたものであり、論文数148、発表件数152を数え、2日間21セッションの巨大なものとなった。また、初日の3月8日は電気学会シンポジウムも併催され、2日間の延べ人数は357名と多数のご参加を頂いた。

今回より、研究発表内容を産業計測制御全般と銘打ち開催することになり、産業計測制御技術委員会傘下の全委員会からの論文投稿が期待され、過去開催されたどの研究会よりも数多くの論文投稿数が集まることが当初より予想された。そのため、発表件数の増加に伴う当日の受付方法や発表会場・懇親会場の手配などに工夫を凝らし、現地スタッフをはじめ、各担当委員の皆様方の並々ならぬ多くのご苦勞を頂くことになった。特に、プログラム編成においては、2日間の開催期間中に、参加者が多くのセッションを自由にご覧頂けるように同時開催するセッション数が少なくするように配慮をした。実際には、152件の発表と電気学会シンポジウムのために、4パラレルのセッション構成を考え、発表論文を21のセッションに分け実施した。また、余裕を持った発表と質疑が行われるように投稿論文の発表時間を15分、質疑応答時間を5分と定め、また1セッション途中で休憩時間5分の間を取り、ゆとりのある運営を行った。このため、朝早く8時45分から夕方遅く18時15分までの研究会となり、2日間の濃密であり、かつ充実した時間が確保された。また、例年本研究会にてご発表頂いた論文から構成される特集号を産業応用部門論文誌において組ませて頂いている。今回の研究会については、2012年3月号に特集号として組まれる予定である。

さて、産業計測制御技術委員会では、7つの調査専門委員会または協同研究委員会が活動しているが、従来、委員会



図1 懇親会にて

間の交流は限られていた。合同研究会の開催は、互いの視野を広げ、相乗効果を生むと期待されていた。その効果をさらに高めるため、本研究会では特別企画を開催した。はじめに中野委員長が技術委員会の現状と課題を述べ、次いで、7委員会委員長（または代理者）が各委員会の現状と課題等を紹介した。最後に、パネルディスカッションで「産業計測制御技術委員会の現在と未来」を討論した。討論は懇親会に持ち越され、活発な意見交換が行われた。

なお、研究会には珍しいことだと思われるが開会式・閉会式を行い、閉会式では産業計測制御分野の発展と沖縄の部門大会での再会を約束して記念撮影・散会となった。

南方 英明（千葉工大）
島田 明（芝浦工大）
高橋 悟（香川大）
（平成23年5月7日受付）



図2 閉会式にて